

シンポジウム 気象変動と豪雨災害

全球的な高度経済化や人口増、航空機・自動車交通の過密化等は、燃料使用や化学物質放出を伴い進行し、CO2をはじめとする大量・多様なガスの温室効果によりさまざまな気候変動、とりわけ気温上昇をもたらすとされています。IPCC第5次評価報告書(2014年)は、21世紀末に最大4.8°Cの平均気温上昇となるとしています。

地球温暖化は、生命や社会生活の維持に大きな影響や困難をもたらす、海面上昇だけでなく大気及び陸域の水分移動の量・状態に劇的な変化を起こすことが懸念されています。その一端として、極端な集中豪雨による土砂災害や洪水がここ数年の間にも各地で頻発し、多くの生命と財産が失われる事態に、すでに見舞われています。いまこそ地球温暖化の抑制だけでなく、激化する災害が生活圏へ及ぼす打撃・被害に賢く対応し、ともに生きぬくため、市民の意思と価値観の共有、そして行動が必要です。

この合同シンポジウムは、気候変動に起因する極端気象と、それがもたらす事態の発生の傾向をふまえ、人間の生活圏において取り組むべき行動や枠組みなどを、従来の常識を超えて提起しあい、それらの効果的な融合をめざすものです。

コーディネーター

藤永延代さん (大阪自治体問題研究所副理事長)

基調講演 「極端気象の発生傾向と災害」

寺尾 徹さん (香川大学教授・気象学)

報告 「2014広島土砂災害の現場から」

越智秀二さん (比治山女子中学・高校教諭・防災士)

参加団体からのパネル報告 及び 総合討論

とき 2017年6月17日(土)13:00~16:30

ところ 京都社会福祉会館 第5会議室

主催 大阪自治体問題研究所・建設政策研究所関西支所・国土問題研究会

協賛 京都自治体問題研究所 問合せ先 国土問題研究会 075-241-1373

参加費(資料代)500円
申込み不要・当日受付

